対象作品／ウルフ・スタルク著『おじいちゃんとの最後の旅』徳間書店

大好きなおじいちゃん

弘前市立文京小学校　古川隆惺

ぼくは、スポーツや体を動かすことが大好きで、じっと本を読むことが苦手です。でも、毎年夏休みには一さつ本を読んで読書感想文を書いています。せっかくなのでおもしろい本を読んでみたいと思い、本屋さんへ行きました。ぼくは、おじいちゃんが大好きなので、いっしょに旅に行くことを考えたらワクワクしてきます。早く読んでみたいという気持ちになりました。ぼくは、家に帰ってすぐに本を読みはじめました。

『おじいちゃんとの最後の旅』には、汚い言葉を平気で使うがんこでおこりっぽいおじいちゃんと、そんなおじいちゃんが大好きな孫のウルフが出てきます。入院して病院から出ることができないおじいちゃんとウルフがひみつの計画をします。病院をぬけ出して、おじいちゃんの家に二人で旅をします。このひみつの旅をきっかけに、おじいちゃんがやさしくかわっていくお話です。

この本を読み終えて一番おどろいたところは、ぼくのおじいちゃんと本のおじいちゃんがよくにていたところです。ぼくのおじいちゃんも病気です。体調が良かったり悪かったりします。本のおじいちゃんみたいに口も悪いです。でも、そんなおじいちゃんがぼくは大好きです。だから、この本はとてもおもしろかったです。

この本で気になったところは、ウルフがとてもやさしいところです。おじいちゃんをこっそり家につれていったり、病院で飲めないビールをこっそり買ってあげたりします。ぼくは、おじいちゃんのたん生日には絵をあげたりしますが、もっとなにかしてあげたいと思いました。

また、おじいちゃんがだんだんやさしくなっていくところが気になりました。

最初はかんごしさんに悪口を言ったり、お父さんと仲が悪かったりします。でも、旅をきっかけに辞書でやさしい言葉を勉強をしてどんどんやさしくなります。でも、どんどん弱っていきます。ぼくは、そんなおじいちゃんがかわいそうに

感じました。少しさみしくなりました。

この本を読み終えて、家族を大切にしようという気持ちになりました。おじいちゃんは、亡くなったおばあちゃんに会うために天国に行きたかったので、がんばってやさしくなりました。おじいちゃんは、おばあちゃんがとても大好きなんだと思いました。ぼくも家族のみんなが大好きです。おじいちゃんもおばあちゃんも大好きです。この本を読んで、みんなにいろいろなことをして、よろこんでもらいたいです。